

第5章 機運釀成活動・理解促進活動

第5章 機運醸成活動・理解促進活動

札幌2026大会の招致にあたり、招致に係る調査結果や開催概要計画案をより多くの市民に周知して理解を深めていただき、これに対する市民意見を広く募るとともに、市民からの支持を得ることが重要であることから、機運醸成活動や理解促進活動を実施した。

1 平成26年度（2014年度）の取組

<冬季オリンピック・パラリンピック招致を考えるシンポジウム>

- ・実施日時：平成26年（2014年）10月6日 18:00～20:00
- ・実施場所：道新ホール
- ・概要：冬季オリンピック・パラリンピックの札幌招致に関する調査結果を広く市民に周知し、市民理解を促進するとともに市民議論を喚起することを目的に「冬季オリンピック・パラリンピック招致を考えるシンポジウム～葛西選手が語るオリンピックの魅力～」を開催した。516人が参加した。
- ・出演者：トークセッション 葛西 紀明氏 （株）土屋ホーム
コーディネーター 原田 宗彦氏 早稲田大学スポーツ科学学術院教授
パネリスト 葛西 紀明氏 （株）土屋ホーム
小林 英嗣氏 北海道大学名誉教授
星野 恭亮氏 商工会議所副会頭（旭イノボックス（株）代表取締役社長
- ・プログラム：① 開会挨拶
② 葛西 紀明氏のトークセッション
③ 調査結果説明
④ パネルディスカッション
⑤ 質疑応答

2 平成27年度（2015年度）の取組

<冬季オリンピック・パラリンピックPR動画作成>

- ・概要：1972年札幌オリンピック等を題材とした市民・道民のシビックプライドを向上できるPR動画、世界に向けたウインタースポーツシティ札幌のPR動画を作成した。



ウィンタースポーツシティ札幌編



シビックプライド編

<イベントにおける動画放映>

- ・実施時期：平成27年（2015年）10月～
- ・概要：FISジャンプワールドカップレディースゼッケン贈呈式、さっぽろ雪まつり大通公園1丁目会場特設ステージ横の大型ディスプレイや3丁目・8丁目会場の大型ディスプレイ、札幌マラソンにおいて、冬季オリンピック・パラリンピック招致機運醸成PR動画を放映した。



FISジャンプワールドカップ
レディースゼッケン贈呈式



雪まつり会場での動画放映

<札幌冬季オリンピック・パラリンピック招致機運醸成PRポスター掲出>

- ・概要：冬季オリンピック・パラリンピックの招致を広く市民に伝えるため、PRポスターを作成。市議会議員や関係施設など約500か所に対してPRポスターの掲出を依頼した。



札幌冬季オリンピック・パラリンピック招致機運醸成PRポスター

3 平成28年度（2016年度）の取組

<札幌招致PRキャラバン（夏）>

- ・実施時期：平成27年（2015年）7月～9月
- ・概要：冬季アジア大会組織委員会が、大会200日前を記念して同大会のマスコットキャラクター「エゾモン」とPRキャラバン隊による同大会のPR活動を札幌市内の各種イベントにおいて実施するのと連携し機運醸成を実施。延べ約7,000名が参加。
- ・主なイベント：まちなか運動会、サマージャンプ大会、各区民祭、ハッピーママフェスタ、オータムフェスト等全21イベントで実施。



まちなか運動会のPRブース



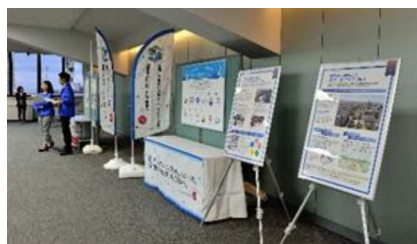
ハッピーママフェスタの様子

<2026 “つながる” シンポジウム>

- ・実施日時：平成28年（2016年）9月15日 18:00～20:00
- ・会場：道新ホール
- ・概要：開催概要計画案をより多くの市民に周知して理解を深めていただき、これに対する市民意見に耳を傾け、オリパラ招致に対する市民からの支持率の向上が重要であることを踏まえ、開催概要計画案の市民周知及び理解促進、これに対する意見募集及び招致機運醸成を目的に開催。オリンピック・パラリンピアンをお招きし、普段は聴くことのできない体験談なども交えてオリンピック・パラリンピックの意義や素晴らしさなどについて考えるシンポジウムとした。500名が参加した。
- ・主な出演者：鈴木明子氏（プロフィギュアスケーター）、大日方邦子氏（冬季パラリンピックアルペンスキー金メダリスト）、しろっぷ（札幌市出身お笑い芸人）、秋元市長



トークセッションの様子



会場入口前PRブース

<オリパラボ（学生ワークショップ）>

- ・実施期間：平成28年（2016年）8月19日～10月20日（全4回）
- ・概要：これからのまちづくりを担う若い世代に、札幌のまちの将来やオリンピック・パラリンピックについて主体的に考え、発信してもらうことを目的として、学生ワークショップ「オリパラボ」を行い、その成果を、SAPPORO DESIGN WEEK 2016のイベントの中で発表した。



ワークショップの様子

<ウインタースポーツストリート>

- ・実施期間：第1回 平成28年（2016年）12月22日～30日
第2回 平成29年（2017年）1月16日～21日
第3回 平成29年（2017年）2月4日～12日
- ・実施場所：札幌駅前通地下歩行空間 駅前スペース広場
- ・概要：リニューアルオープン予定であった札幌ウインタースポーツミュージアムの事前PRと、2017冬季アジア札幌大会について相乗的にPRを実施。また、この機会に併せ、札幌市において開催するウインタースポーツ大会やウインタースポーツ振興に係る取組について断続的にPRすることで、ウインタースポーツシティとしての本市の魅力を発信した。



地下歩行空間のサテライト展示の様子



スキージャンプのトリックアート

<札幌招致PRキャラバン（冬）>

- ・実施期間：平成29年（2017年）1月～2月
- ・概要：エゾモンとPRキャラバン隊によるアジア大会のPR活動を札幌市内の各種イベントにおいて実施するのと連携し、機運

醸成活動を行った。

- ・主なイベント：F I SジャンプW杯、ノルディックコンバインドW杯、大倉山ウィンタースポーツフェスタ、札幌国際スキーマラソン、さっぽろ雪まつり等全11イベントで実施。延べ約3,000名が参加した。



さっぽろ雪まつりにおけるPR

<パラノルディックスキーワールドカップ札幌大会>

- ・開催日程：平成31年（2019年）3月12日～17日（5日間）
- ・開催場所：札幌市豊平区 西岡バイアスロン競技場
- ・実施競技：バイアスロン、クロスカントリー
- ・参加国数：13か国
- ・選手・スタッフ数：約140人
- ・概要：選手たちが熱戦を繰り広げるとともに、今大会で初めて実施したファンラン「パラアスリートと一緒に滑るクロスカントリー・バイアスロンチャレンジ！」では、障がいのある子どもも含めた大勢の子どもたちがアスリートと交流をした。

また、大会前には、日本代表の荒井秀樹監督や平昌パラリンピック金メダリストの新田佳浩選手らが、小学校への訪問や体験会などを実施。大会期間には、地元の小学生らが授業の一環で競技を観戦した。



生徒たちとの交流の様子



競技の様子

トピック⑥ 2017 冬季アジア札幌大会開催

<大会概要>

- ・開催日程：平成29年（2017年）2月19日（日）～26日（日）（8日間）
- ・開催地：北海道 札幌市（12会場）・帯広市（1会場）
- ・参加国・地域数：32か国（ゲスト参加のオセアニア2か国含む）初参加国は5か国
- ・参加者：選手数 1,164人（男子770人、女子394人）役員数 636人（男子484人、女子152人）NOC関係者 210人
- ・競技種別：5競技 11種別 64種目
- ・大会中來訪者数（推定）：約10万人（観客・メディア・ボランティア含む）
- ・大会運営費：64.3億円（札幌市直接負担分36.8億円を含む）
- ・北海道内経済波及効果：約129億円（日本政策投資銀行 算出）

平成22年（2010年）12月、JOCの開催要請を受けて、平成23年（2011年）1月に立候補、同月開催が決定した。札幌では1990年の第2回大会以来3回目の開催。参加者数は2,010人に及び、過去最大規模となった。

本市は、大会組織委員会事務局（大会開催時105名）に多くの職員を派遣しており、本大会開催成功により札幌市の大会運営能力をアピールすることができた。



JOCレセプションの様子



開会式



アルパンスキー（大回転）



アイスホッケー

<大会の成果>

大会にあたり来札していたOCA（アジア・オリンピック評議会）会長が記者会見にて、2026年冬季オリンピック・パラリンピック招致について、「札幌は準備ができていて、市民がサポートしている。開催能力が十分にある」との発言があった。

IOC委員、IF役員、政府関係者も大会に際して多数来札しており、札幌の大会運営力のアピールが平成29年（2017年）11月対話ステージに進むきっかけとなった。

4 平成29年度（2017年度）の取組

<札幌招致PRキャラバン（夏）>

- ・期 間：平成29年（2017年）7月～10月
- ・概 要：エゾモンとPRキャラバン隊によるPR活動を札幌市内の各種イベントにおいて実施するのと連携し、招致機運醸成活動を実施した。
- ・主なイベント：さっぽろ夏まつり、北海道マラソン、サマージャンプ大会、オータムフェスト、スポーツバイキング等で実施。



オータムフェストのPRブース



スポーツバイキングでの様子

<札幌国際芸術祭（500m美術館）におけるPR>

- ・実施期間：平成29年（2017年）8月6日～10月1日
- ・概 要：『中崎透×札幌×スキー「シュプールを追いかけて」』
スキーや雪山、1972年札幌オリンピック冬季競技大会にまつわる展示物、リサーチにより集めたスキー板をはじめとした冬の道具を、直線の展示空間を生かし、年代を追って並べつ、それにまつわる関係者へのインタビューを掲示することで、その道具や作品の年代にあった生活や人、時代を想起させる展示。生活する上でやっかいな雪と共存し、冬と常に向き合いながら成長をしてきた札幌という都市が持つ人間の工夫や遊び心の軌跡を、雪景色に刻まれたシュプール（スキーの滑走跡）をたどるように体験できる空間を創出。



展示の様子

<東京2020大会3年前イベント連携PR>

- ・実施日：平成29年（2017年）7月24日
- ・会場：札幌駅前通地下歩行空間札幌駅側イベントスペース（北4条）
- ・概要：東京2020大会の開催機運醸成に向け地下歩行空間で実施された同イベントに、ブースを出展。顔出しパネルやのぼりを設置し、招致PRを実施した。また、北海道に縁のあるオリンピック・パラリンピアンによるトークショーも行われた。
- ・トークショー出演者：稲本潤一氏（シドニーオリンピックサッカー男子日本代表）、小笠原歩氏（ソルトレイクシティ、トリノ、ソチオリンピックカーリング女子日本代表）、船山弓枝氏（ソルトレイクシティ、トリノ、ソチオリンピックカーリング女子日本代表）、池崎大輔氏（ロンドン、リオパラリンピックウィルチェアーラグビー日本代表）



ブース出展の様子



トークショーの様子

<青少年科学館連携企画展>

- ・実施期間：平成29年（2017年）10月14日～29日
- ・会場：札幌市青少年科学館
- ・概要：冬季スポーツを科学的に考える視点を提供しながら、札幌オリンピックミュージアムの所蔵品や、冬季オリンピック・パラリンピック競技紹介パネルの展示等を行った。
- ・主な内容：札幌オリンピックミュージアム所蔵品、冬季競技種目の紹介パネル、札幌2026大会開催概要計画の紹介パネルの展示、体験型ラリー、プラネタリウムでの招致PR動画の上映



冬季競技のパネル展示

<学生アイデアコンテスト（東京2020大会1000日前イベント連携PR）>

- ・実施日：平成29年（2017年）10月28日
- ・会場：札幌駅前通地下歩行空間札幌駅側イベントスペース
- ・概要：将来を担う学生をはじめとした若者世代に対し、「つながり」～みんなが参加するオリンピック・パラリンピック～をテーマに、オリンピック・パラリンピックに多くの人が参画し、みんなの手でつくり上げるためのアイデアを募集。審査員から「つながり度」「面白さ」「創造性」「レガシー」「実現可能性」の観点から審査し、賞を決定し、表彰式を行った。
また、招致PRブースを出展するとともに、市内の児童会館の子どもたちが描いた1,000枚のオリンピック・パラリンピックにちなんだ作品も展示。



学生による発表の様子



オリエンテーション時の座談会の様子



ブース出展の様子



子どもたちによる絵画展示

<北海道オール・オリンピアンズ連携協定 調印式>

- ・実施日：平成29年（2017年）12月15日
- ・会場：札幌オリンピックミュージアム
- ・概要：オリンピック・パラリンピック教育の拡大や招致機運の盛り上げを目的に、北海道オール・オリンピアンズとの連携協定を締結。調印式後には、橋本聖子代表による子どもたちへのオリンピック・パラリンピック教育及び記念撮影を実施。
- ・協定に基づく主な取組：オリンピック・パラリンピック教育への人的支援の協力、冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致の機運醸成に向けた各種イベントや講演会・広報活動への協力、各種スポーツ振興のための事業に対する人的支援の協力 等



調印式



橋本聖子氏によるオリパラ教育

<各地区図書館におけるオリパラ企画展>

- ・実施期間：平成30年（2018年）1月11日～3月20日
- ・概要：図書を通じてオリンピック・パラリンピックへの関心を喚起することを目的に実施。告知パネルや、オリンピック・パラリンピック関連の図書を展示。



地区図書館での展示の様子

<札幌招致PRキャラバン（冬）>

- ・実施期間：平成30年（2018年）1月～2月
- ・概要：エゾモンとPRキャラバン隊によるPR活動を札幌市内の各種イベントにおいて実施するのと連携し実施。
- ・主なイベント：FISジャンプワールドカップレディース、雪まつり（つどーむ会場）、大倉山ウィンタースポーツフェスタ等



FISジャンプワールドカップレディース



雪まつり つどーむ会場

5 平成30年度（2018年度）の取組

<平昌オリンピック・パラリンピックどさんこ選手を讃える会>

- ・実施日：平成30年（2018年）5月6日
- ・会場：北海道庁本庁舎前
- ・概要：平成30年（2018年）2月から3月に平昌において開催された冬季オリンピック・パラリンピックに出場したどさんこアスリートの活躍を讃える会を、北海道、札幌市、北海道体育協会、北海道障がい者スポーツ協会などからなる実行委員会により開催。
- ・出席者：スピードスケート女子チームパシュートにおいて金メダルを獲得した高木菜那氏、高木美帆氏、佐藤綾乃氏をはじめとした、約50名のどさんこアスリート



祝賀・慰労会



讃える会（荣誉賞授与式）

<「虹と雪のバラード」アレンジコンテスト>

- ・実施期間：平成30年（2018年）7月24日～
- ・概要：1972年札幌オリンピック開催時に流行した「虹と雪のバラード」に親しんでもらう機会を増やすべく、若い世代を中心とした市民を対象にアレンジコンテストを行った。優秀な作品をその後のPR活動にて使用することで、1972年札幌オリンピック当時を知る世代と若い世代が「つながり」、市民が一体となって、招致に向けた機運が盛り上がるよう実施。



レコーディングの様子



審査会の様子

<東京2020大会2年前イベント連携>

- ・実施期間：平成30年（2018年）7月24日～25日
- ・会場：札幌駅前通地下歩行空間札幌駅側イベントスペース
- ・概要：東京2020大会2年前イベントにおいて、平昌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会出場の北海道に縁のあるオリンピックアンによるトークショーのほか、「札幌JAPAN市」会場において、経済界協議会と連携し、フロアカーリング体験ブースを展開。



経済界協議会による取組



フロアカーリング体験ブースの様子

<札幌招致PRキャラバン（夏）>

- ・実施期間：平成30年（2018年）4月～9月
- ・概要：札幌市内の各種イベントにおいて、招致機運醸成活動を実施
- ・主なイベント：さっぽろラグビーフェスティバルwithスポカル2018、第27回YOSAKOIソーラン祭り、環境広場さっぽろ2018、各区民祭（白石区、清田区、厚別区）、まちなか運動会2018、サマーjump大会（第36回札幌市長杯宮の森サマーjump大会等）、北海道マラソン2018等



ラグフェス&スポカル



まちなか運動会

第6章 2030大会へのシフト

第6章 2030大会へのシフト

1 JOCとの協議

7か国が2026年大会招致の対話ステージに参加（平成30年（2018）年3月31日締切）したことや、2026年大会招致を進めていくためには市民の意向調査を行う必要があること、一方、新聞社による世論調査において、新幹線の札幌開業を踏まえた2030年以降の大会を望む声が大きいという結果となったこと、経済界も2030年大会招致を支持する意向があったことなどの背景の中、平成30年（2018年）5月14日に竹田JOC会長と秋元市長において、北海道新幹線延伸など地元のまちづくりの状況や世界情勢を踏まえ、今後2026年大会招致の進め方について意見交換を行った。札幌市は今後、地元の関係者等とも協議を進めながら、2026年大会招致をどのように進めて行くか、最終的な結論を出していくこととした。

2 地元及びJOCとの協議

IOCの2026年大会の招致プロセスにおける対話ステージに参加し、実務者協議を終え、これまでの取組や大会招致を取り巻く状況、招致実現への課題などの情報共有を図るとともに、招致時期などの今後の方向性を確認するために、平成30年（2018年）7月15日に、JOC、関係自治体や経済団体、競技団体など地元関係者との意見交換会を開催した。

招致時期については、2030年大会の方が招致の環境が整うということが出席者の共通の意見であったが、JOCからは、同年9月末までの対話ステージに最後まで残り、IOCとの協議を継続したほうがよいとの助言があった。よって、IOCとの協議を進めながら対話ステージに残り、同年9月に改めて招致時期を判断することとした。

このような状況の中、同年9月6日に北海道胆振東部地震が発生した。

3 IOC・JOCとの3者会談

平成30年（2018年）9月6日に発生した北海道胆振東部地震による影響なども踏まえ、9月17日にIOCバッハ会長、JOC竹田会長、町田副市長の3者でローザンヌにおいて会談を実施。札幌市からバッハ会長へ震災被害及び復旧見通しを説明し、震災状況も踏まえた札幌の招致に係る協議の結果、札幌市を2026年大会の候補者リストに入れないこと、2030年大会招致に向けて対話を継続することで合意した。

トピック⑦ 北海道胆振東部地震（平成30年（2018年）9月6日）

平成30年（2018年）9月6日3時7分、北海道の胆振地方中東部を震源とする地震が発生。マグニチュードは6.7、最大震度は厚真町の震度7で、北海道では観測史上初の震度7を記録した。札幌市では最大震度6弱を観測し、液状化現象が発生、住宅や道路に甚大な被害が出た。

また、地震の影響で複数の発電所が停止したことにより、道内全域で大規模停電が発生した。



（出典：平成30年北海道胆振東部地震対応検証報告書より抜粋）

【主な被害状況】カッコ内は札幌市の被害状況

- ・死者42名（2名）、負傷者762名（298名）
- ・全壊462棟（95棟）、半壊1,570棟（684棟）、一部破損12,600棟（4,352棟）
- ・北海道内全域で約295万戸の停電